お姫さまと猟師

村山籌子

青空文庫

お姫さまは朝から、大変ごきげんがわるうございました。そして、ぷりぷり、おこつてゐらつしやつたので、いつものかはいゝお姫さまではなくて、年をとつた、おばあさんのやうに、こはいお顔をしてゐらつしやいました。そこへ、お姫さまの大好きな、猟師が山から帰つて参りました。そして、

「お姫さま、今日は何にも、えものがございませんでした。」と猟師が申しました。

「えものがなかつたの？」と、お姫さまはおつしやいました。そして、お泣きになりました。

そこで、猟師が申しました。

「それがです。私は、どんと、この鉄砲を打ちました。猟犬のレオは、一散に走つて行つて、えものをくはへて来ました。まあ、おどろくではございませんか、おもちやの熊なんです。そしてそのおもちやの熊は死んでゐました。また、けものが出て来ました。真白な犬位ある奴なんです。これはと思つて引金を引きました。レオは飛んでゆきました。まあ、何となさけないことでせう。白い、小ちやい犬ころでした。

仕方がないので、谷へおりて行つて水をのまうと致しますと、目の前に、わに程もあるお魚が泳いでゐるのでございます。私はすつかりおなかがへつて、ぺこぺこでした。急いでそれをつかんで、口の中へ、はふりこみました。まあ、何て、かたい肉でせう。私の前歯が四本ともぼこぼことをれてしまひました。お姫さま、それは、五寸位の、鉄のおもちやのお魚でした。

私は、なさけなくなつて、ぐつたりと大きい木にからだをもたせかけましたら、どしんと、私はひつくりかへりました。何にも、木なんぞありませんでした。よくよく足もとを見ると、おもちやの松の木がころがつてゐました。」

この猟師は、かう言ひながら、泣きさうになりました。大変年寄りでしたから無理もありません。

「まあ、お前は馬鹿ねえ。なぜ、そのおもちやを、私にもつてかへつてくれなかつたの。」とお姫さまがおつしやいました。

猟師は、さも困つたやうに胸をどきどきさせて涙をこぼしました。

「お姫さま。私はさう思ひました。そして、それをひろひあげて、この網のなかへ入れようと致しますと、みんな、網のなかへははひらず、外へこぼれてしまひました。お姫さま、それは、たしかに夢だつたんでございます。」

お姫さまは大きい声でお笑ひになりました。美くしいお姫さまが、ごきげんを直したので、猟師はやつと安心して、胸をなでおろしました。そして、二人で、いつまでも笑ひました。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第二六巻」ほるぷ出版
　1978（昭和53）年11月30日初刷発行
底本の親本：「日本童話選集　第一輯」丸善
　1926（大正15）年12月
初出：「子供之友」婦人之友社
　1924（大正13）年7月
※初出時の署名は「岡内籌子」です。
入力：菅野朋子
校正：noriko saito
2011年2月14日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

お姫さまと猟師

村山籌子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/